



私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

日本赤十字看護大学の4分野（精神保健看護、成人看護、老年看護、看護教育）における研究

☆ 精神保健看護学領域：研究代表者 武井 麻子教授（他6名）

研究テーマ「災害における援助者の二次的 PTSD への予防教育に関する研究」

**目的：** 実際に災害救援にあたった看護師へのインタビューを行い、そこで体験したことについて詳細に語ってもらうことを通してその全貌を把握しながら、二次的 PTSD を予防するために必要な方策や教育のあり方について探る。

**意義：** 災害救援にあたる医療者の二次的外傷体験の様相やそのリスク要因が明らかになると同時に、二次的 PTSD を予防するための事前の準備教育及び、事後のフォロー体制の確立のための基礎資料を提供することができる。

☆ 成人看護学領域：研究代表者 本庄 恵子教授（他8名）

研究テーマ「災害時における疾患や障害をもつ人々への援助

—東日本大震災に焦点をあてて—

**目的：** 1. 東日本大震災における疾患や障害をもつ人々の被災時の体験と被災状況を明らかにする。  
2. 災害時における疾患や障害をもつ人々への看護支援を明らかにする。

**意義：** 災害時において、疾病や障害をもつ人々が直面した問題、困難な体験、そして、支援を明らかにすることによって、災害時の支援を検討する手がかりを得ることができる。

また、これらの研究結果は、これまでの成人看護学テキストに「疾患や障害をもつ人々への災害時の支援」を追加することや、看護学生への授業に生かすことにつながると考える。

☆ 老年看護学領域：研究代表者 グライナー智恵子准教授（他4名）

研究テーマ「東日本大震災における被災高齢者の身体機能の維持・向上に関する研究」

**目的：** 東日本大震災被災高齢者の身体機能の維持・向上を図るプログラムを作成し、プログラム実施における効果を検証する。

**意義：** 高齢者は加齢により身体機能が徐々に低下していく傾向にある。これに対し、現在介護保険により要支援者等への介護予防事業が実施されている。しかし被災地においてはこの支援事業が十分機能しておらず、また被災高齢者は地震や津波後、環境の整わない中での生活や、住み慣れた家を離れて仮設住宅での生活を余儀なくされており、閉じこもりや身体機能低下をきたしている高齢者、及びその危険性のある高齢者が多く存在すると考えられる。したがって、被災高齢者に対して身体機能の維持・向上を目指したプログラムを実施することは、被災高齢者の

閉じこもり予防・改善と身体機能の維持・向上を促進し、生活不活発病の予防につながる。これは被災高齢者が長く自立した生活を営むことに寄与するものと考える。



☆ 看護教育学領域：研究代表者 佐々木 幾美教授（他4名）

研究テーマ「アジア圏の看護教育における災害看護の教授内容と方法に関する現状と課題」

**目的：** 日本およびアジア各国における災害看護教育の現状とその課題を明らかにすること。

課題 1. 日本およびアジア各国の文献から、過去 20 年にわたる各国の看護教育における災害看護の教授内容と方法の動向を明らかにする。

課題 2. 質問紙調査により、アジア圏の看護大学における災害看護教育の現状および 2007 年以降の 5 年間の変化を明らかにする。

**意義：** 日本の看護教育における災害看護に関する現存の教授内容と方法が明らかになると同時に、アジア圏の災害看護教育の教授内容と方法が明らかになることによって、本学が国際的な災害看護研究及び教育トレーニングの拠点を形成する上での、基礎的資料を構築するための示唆が得られる。